



BUILT FOR POWERCORE



# FABRIK C

CHANNEL STRIP PAR EXCELLENCE

**t.c. electronic**  
ULTIMATE SOUND MACHINES

## サポート情報 - TC Support Interactive

TC Support Interactive (www.tcsupport.tc) は、オンラインのサポート及び情報提供のためのウェブサイトです (英語のみ)。TC Support Interactive では、TC ソフトウェア/ハードウェア製品に関する一般的な質問の解答を、製品/カテゴリー/キーワード/フレーズから検索可能です。一度サイトで登録を行えば、「My Stuff」セクションから、質問の状況を調べたり、製品マニュアルやソフトウェア・アップデート、プリセット等のダウンロードも行えます。

データベースは TC 製品に関する最新の情報が満載です。お求めの情報がデータベースにない場合は、質問を提出することも可能です。この場合は、TC のテクニカル・サポートのスタッフが電子メールでご連絡させていただきます。

The screenshot shows the TC Support Interactive website interface. At the top, there is a navigation bar with links for 'Support Home', 'Answers', 'E-Mail Us', 'My Stuff', 'Login', and 'Help'. Below this is a search section with several filters: 'Product Line' (set to 'All Product Lines'), 'Category' (set to 'All Categories'), 'Access Level' (set to 'Any'), and a 'Search Text (optional)' field. There is also a 'Search By' dropdown set to 'Phrases' and a 'Search' button. Below the search section, it indicates '854 Answers Found' and a pagination control showing 'Page: 1 of 43'. A table of search results is displayed with columns for 'Summary' and 'Product'.

	Summary	Product
1	New - When will VSS3 PowerCore be ready?	multiple
2	New - DSP usage with VSS3 PowerCore	VSS3 POWERCORE
3	Updated - 3rd party developers making plug-ins for the PowerCore platform	multiple
4	PowerCore driver version 1.9.2	multiple
5	New - Storing settings in Preset Direct Mode	VOICELIVE

### 連絡先

また、インターネット以外でのお問い合わせにつきましては、各地域の TC 支社または輸入代理店までご連絡ください。

TC ELECTRONIC A/S  
Customer Support  
Sindalsvej 34  
Risskov DK-8240  
Denmark

USA:  
TC Electronic Inc.  
5706 Corsa Avenue, Suite 107  
Westlake Village, CA 91362

www.tcelectronic.com

© BY TC ELECTRONIC A/S 2006. ALL PRODUCT AND COMPANY NAMES ARE TRADEMARKS OF THEIR RESPECTIVE OWNERS. VST IS A TRADEMARK OF STEINBERG AG, AUDIO UNITS IS A TRADEMARK OF APPLE COMPUTER, INC. ALL SPECIFICATIONS SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL RIGHTS RESERVED. TC ELECTRONIC IS A TC GROUP COMPANY.

# 目次

サポート情報及び連絡先	2
目次	3
動作環境	4
基礎情報	4
はじめに	5
主な機能	5
プラグイン概要	6
フルバンドと3バンド・コンプレッション	6
シグナル・フロー	8
EQ セクション	9
FILTER TYPES - フィルター・タイプ	10
コンプレッション - 3 バンド・モード:	
Source Selection (ソース選択) ページ	12
Gain Control (ゲイン・コントロール) ページ	12
Compressor Control (コンプレッサー・コントロール) ページ	13
Level Control (レベル・コントロール) ページ	13
コンプレッション - フルバンド・モード	14
パラメータの調節 - コンプレッサー・セクション	14
Limiter - リミッター	15
De-Esser - ディエッサー	15
プリセット管理	16
A/B 比較	18

## 動作環境

### Macintosh

デスクトップ機、iBook、または PowerBook

G4 または G5、733MHz 以上

Mac OS 10.3.6、あるいはそれ以降

最低 512MB RAM

### Windows

デスクトップまたはラップトップ機

Pentium 4、1.4 GHz 以上

Windows XP、あるいはそれ以降

最低 512MB RAM

PowerCore 全種類に対応

VST / Audio Units / RTAS ※対応のホスト・アプリケーション (Logic、Nuendo、Live、Digital Performer 等)

※ RTAS (Pro Tools) には FXpansion 社の VST - RTAS アダプター経由で対応 (オプション)。対応状況については、[www.tcsupport.tc](http://www.tcsupport.tc) をご参照ください。

## 基礎情報

### スクロールホイール対応

Windows XP / Mac OS X 共に、ホスト・アプリケーションが対応している場合は全てのパラメーターをスクロールホイールから操作できます。マウスをパラメータの値フィールドの上に移動し、スクロールホイールを動かすと、パラメーターの値を上下できます。

### キーボード・ショートカット

ほとんどのホスト・アプリケーションでは、次のキーボード・ショートカットが使用できます。次のショートカットは、全てのパラメーターに有効です。

#### キーボード・ショートカット: Mac OS X

ファイン調節	= アップル・キー
デフォルト値への復帰	= オプション
コンテキスト・キー	= コントロール+マウス・クリック

#### キーボード・ショートカット: Windows

ファイン調節	= Alt
デフォルト値への復帰	= シフト + コントロール
コンテキスト・キー	= 右マウス・クリック

## はじめに

この度は、Fabrik C プラグインをご購入いただき、誠にありがとうございます。Fabrik C は、プロフェッショナルなオーディオ・プラグインの活用法に革新をもたらす MINT™ (Meta Intuitive Navigation Technology = メタ・インテュイティブ・ナビゲーション・テクノロジー) を採用しています。MINT™ はオーディオの扱いに、シンプルで直感的な操作で極めて効果的な結果を得ることを可能にし、その結果、インスピレーションをかき立てるユーザー・インターフェイスを実現しています。多くの場合、プロフェッショナルなツールは高度で煩雑な作業を伴うと思われがちですが、Fabrik はこの固定観念を覆します。Fabrik プラグインはオーディオの扱い方に新しいアプローチを採用しながら、多くの賞に輝く TC の技術を投入することにより最上級の音質を実現しています。

Fabrik C は、1 つのプラグインに EQ とディエッサー、そして 3 バンド・コンプレッサー／リミッターを統合した、チャンネル・ストリップです。MINT™ を採用することにより、最小限のコントロールで全てのパラメータをコントロールできます。EQ セクションはハイパス／ローパス・フィルター搭載の 4 バンド・パラメトリックで、フィルター・タイプは 4 種類から選択できます。ディエッサーは、フェーダー 1 本による操作ながらも、本格的な作りとなっています。

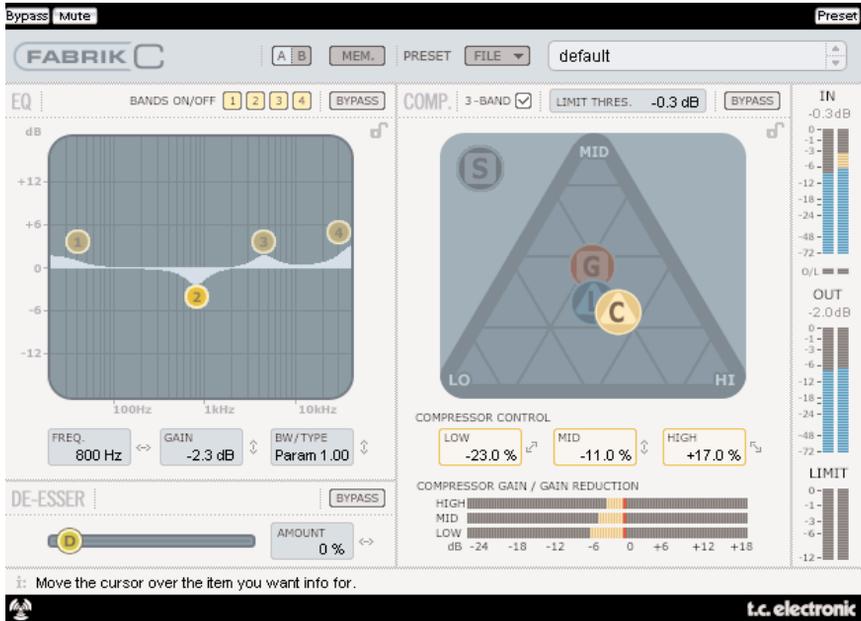
コンプレッサーは、3 バンドのインテリジェント・コンプレッションを行い、最高のコンプレッサーの一つでありながら、一般的なコンプレッションによる好ましくない副作用を回避した処理が行えます。コンプレッション・セクションはリミッターも統合しており、オーバーシュートを心配することなく音楽的な使い方ができます。

MINT™ を採用することにより、分厚いマニュアルは不要となりました。耳で操作が行えます。

## 主な機能

- MINT™ (メタ・インテュイティブ・ナビゲーション・テクノロジー)
- 3 セクション構成：EQ / ディエッサー / コンプレッサー
- 直感的でシンプルな操作によるパラメーター操作
- 4 バンド・パラメトリック EQ
- スケーラブル・ディエッサー
- 3 バンド / フルバンド・コンプレッサー
- リミッター
- 少ないツマミで多くのパラメーターを操作可能
- 定評ある TC テクノロジー
- Windows XP / Mac OS X 対応
- VST / AU 対応
- 24/96 対応
- 48 ビット・ダブル・プレジジョン内部演算

# プラグイン概要



## フルバンドと3バンド・コンプレッション

Fabrik Cは、3バンドとフルバンドのコンプレッション・モードを搭載しています。Fabrik Cはミックス用のマスタリング・ツールではなく、単体のソースで使用することを想定してデザインされているため、3バンド・モードがどの様に使用できるか、不思議に思われるかもしれません。

原則として、ソースの周波数レンジが広く、ピークが特定の周波数帯に偏っている場合は、3バンド・モードの方が適していると言えます。逆に、トランペット・セクションやバック・ボーカルなど、周波数レンジが小さい素材では、フルバンド・モードで良好な結果が得られます。

いくつかのシナリオを想定して、コンプレッション・モードの使い分け方をを解説します。

### ベースに対する3バンド・コンプレッション

ベースに対して3バンド・コンプレッションを使用する場合、高周波数帯をそのまま通しながら、低周波数帯に対してのみコンプレッションを施す使用法が考えられます。こうすることにより、サステインを得るなどのコントロールが行え、倍音に影響することなくベースにパンチを与えることができます。

### グループされたセクションに対する3バンド・コンプレッション

グループを組んだソースの集合体に対してコンプレッションを行いたい場合は、3バンド・モードは極めて効果的になります。3つの周波数バンドに対して独立したコンプレッション設定を行えるため、ミックス全体に透明感を与えることができます。

### ボーカルに対するフルバンド・コンプレッション

密着度が高く空気感のあるヴォーカルを得るには、フルバンド・コンプレッションを使用し、遅いアタックと速いリリースを使用します。一度コツさえつかめれば、極めてシンプル且つ効果的なテクニックです。

### ギターに対するフルバンド・コンプレッション

音程感の強い楽器でも、適切なプロセッシングを行うことによりパーカッシブな方向に変貌させることができます。リズム・ギターにフルバンド・コンプレッションを施すことにより、演奏のリズムやパーカッシブな特徴を強調した、シャープでファンキーな効果を得ることができます。

## リミッター

リミッターは、ソースで稀に生じる極端なピークによるオーバーロードを防ぐ目的に使用します。これは、コンプレッサーでは十分に捉えきれない、または抑えきれないピークに対して有効です。コンプレッサーとリミッターを2段階で使用する手法では、コンプレッサーをソフトなダイナミクス圧縮に、リミッターを極端なピークの制圧に使用します。

## EQ セクション

Fabrik CのEQセクションは4バンドのパラメトリック構成で、ハイ/ローパス・フィルターを内蔵しています。ノッチ/パラメトリック/シェルビング/カットのフィルター・タイプを選択できます。ノッチフィルターは極めてシャープで、0.01オクターブまで範囲を狭めることができます。よりゆるやかなカーブが求められる場合は、3/6/9/12dB/oct.のスロープを得られるシェルビング・タイプを使用します。カット・フィルターでは最大12dB/oct.のフラット・アンプリチュードと、フラット・グループ・ディレイのタイプが使用できます。ナチュラルで「礼儀正しい」バンドワイズが欲しい場合には、パラメトリックを選択します。

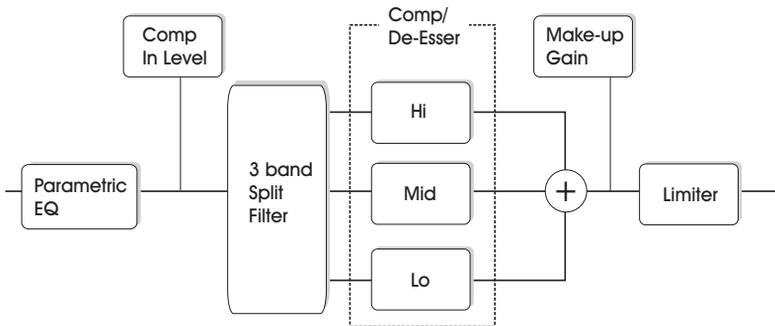
## ディエッサー

ディエッサーとは、歯擦音などのシビランスの周波数帯域にのみ作動する種類のコンプレッサーです。ヴォーカル・トラックなどでは「サ」行の音のみが強い場合があり、このような状況においてディエッサーは有効です。

## ヘッドルーム

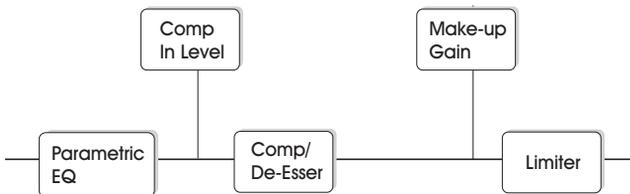
Fabrik Cの内部処理は、クリッピングを回避するために全て48ビットで行われ、リミッターの出力まで24ビットにトランケートされない様に設計されています。

## シグナル・フロー - 3バンド・モード



この図は、3バンド・モードにおけるアルゴリズムのシグナル・フロー図です。図の通り、信号はまず4バンド・パラメトリックEQを通ります。次に、信号はLo / Mid / Hiの3つの帯域に分割され、それぞれ独立してコンプレッションが施されます。バンド間のクロスオーバー周波数は、Source Type (ソース・タイプ) で設定します。メイクアップ・ゲインによるゲインの補完が行われた後に、信号はリミッターを通ります。

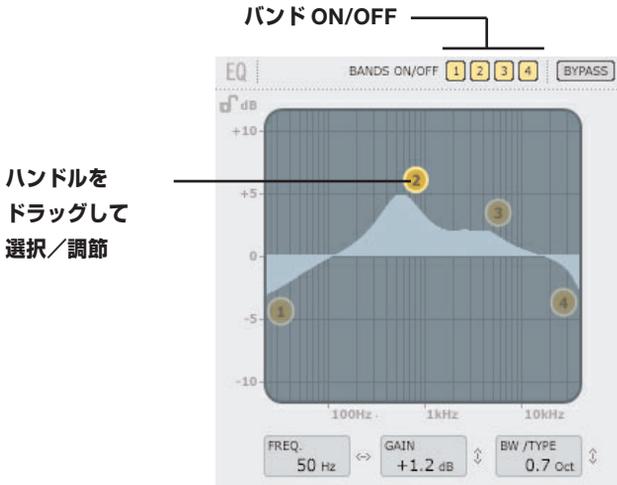
## シグナル・フロー - フルバンド・モード



フルバンド時におけるシグナル・フローは3バンドと共通しており、違いはコンプレッションの種類にあります。3バンド・モードでは周波数帯域を分割してそれぞれの帯域に独立してコンプレッションを行うのに対して、フルバンド・モードでは信号全体に対してコンプレッションを行います。

## EQ セクション

Fabrik C の EQ セクションは 4 バンドのパラメトリック構成で、ノッチ/パラメトリック/シェルビング/カットのフィルター・タイプを選択できます。ノッチフィルターは極めてシャープで、0.02 オクターブまで範囲を狭めることができます。よりゆるやかなカーブが求められる場合は、シェルビング・タイプを使用します。カット・フィルターでは最大 12dB/oct. のフラット・アンプリチュード（バターワース）と、フラット・グループ・ディレイ（ベッセル）のタイプが切り替わられます。調節したいバンドのハンドル（1 / 2 / 3 / 4）を選択して BW/Type（バンドワイズ/タイプ）を設定、次にハンドルを移動して周波数とゲインを調節します。



### BANDS ON/OFF - バンド ON/OFF

各バンドを ON/OFF します。

### FREQ./GAIN - 周波数とゲインの調節

アクティブなバンド（1 / 2 / 3 / 4）を左マウスでクリックドラッグすることにより、周波数とゲインを調節できます。

### BW/TYPE - バンドワイズ/タイプ

まずは、バンドを選択します。次に、カーソルを BW/Type フィールドに移動し、左マウスをクリックしながらマウスを上下に移動することにより、タイプ/バンドワイズを変更できます。Low / Mid / High フィルターではそれぞれ異なるタイプのフィルターが選択できます。詳細は、次ページの解説をご参照ください。

### BYPASS - バイパス

ボタンをクリックすると、EQ セクションがバイパスされます。

# FILTER TYPES -

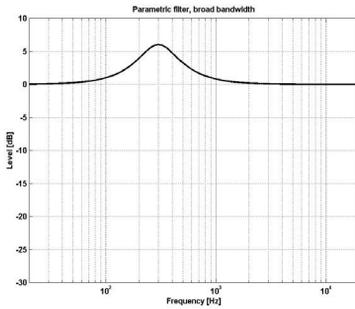
## フィルター・タイプ

Lo と Hi フィルターでは、Parametric / Notch / Shelf / Cut が選択できます。

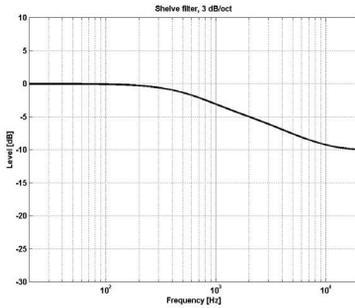
Mid 1 / Mid 2 では、Parametric と Notch が選択できます。

### Parametric Filter (Broad Type) -

パラメトリック・フィルター (ブロード・タイプ)

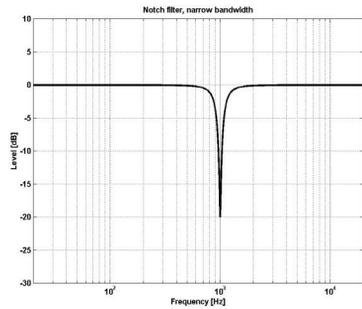


### Shelving Filter - シェルビング・フィルター



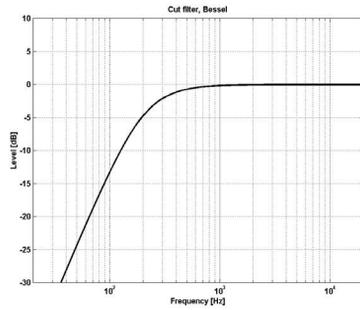
### Notch Filter (Narrow Type) -

ノッチ・フィルター (ナロー・タイプ)



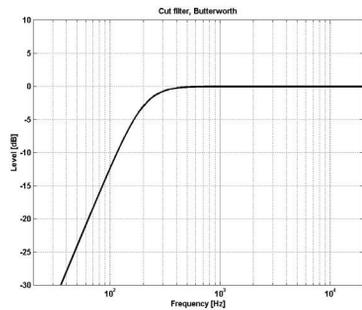
### Cut Filter (Bessel Type) -

カット・フィルター (ベッセル・タイプ)



### Cut Filter (Butterworth Type) -

カット・フィルター (バターワース・タイプ)



## Type - タイプ

### ノッチ・フィルターのゲイン・レンジ：

Lo ゲイン： -inf (無限)、-97dB ~ 0 dB  
Mid1 ゲイン： -inf (無限)、-97dB ~ 0 dB  
Mid2 ゲイン： -inf (無限)、-97dB ~ 0 dB  
Hi ゲイン： -inf (無限)、-97dB ~ 0 dB

### ノッチ・フィルターのレンジ：

Lo BW： 0.02 oct. ~ 1 oct.  
Mid1 BW： 0.02 oct. ~ 1 oct.  
Mid2 BW： 0.02 oct. ~ 1 oct.  
Hi BW： 0.02 oct. ~ 1 oct.

### パラメトリック・フィルターのレンジ：

Lo BW： 0.1 oct. ~ 4 oct.  
Mid1 BW： 0.1 oct. ~ 4 oct.  
Mid2 BW： 0.1 oct. ~ 4 oct.  
Hi BW： 0.1 oct. ~ 4 oct.

### シェルピング・フィルターのレンジ：

Lo BW： 3 dB/oct. ~ 12 dB/oct.  
Hi BW： 3 dB/oct. ~ 12 dB/oct.

### カット・フィルターのタイプ：

Lo BW： Bessel (ベッセル) /  
Butterworth (バターワース)  
Hi BW： Bessel (ベッセル) /  
Butterworth (バターワース)

## バンドワイズ／Q 変換早見表

BW	Q
0.5	2.87
0.7	2.04
1.0	1.41

## Freq - 周波数

### 周波数レンジ：

Lo バンド： 20 Hz ~ 20 kHz  
Mid1 バンド： 20 Hz ~ 20 kHz  
Mid2 バンド： 20 Hz ~ 20 kHz  
Hi バンド： 20 Hz ~ 40 kHz

## Gain - ゲイン

値を変更するには、Gain フィールドをクリックしながらマウスを上下に移動します。

### パラメトリック／シェルピング／

### カット・タイプのゲイン・レンジ：

Lo ゲイン： -12 dB ~ +12 dB  
Mid1 ゲイン： -12 dB ~ +12 dB  
Mid2 ゲイン： -12 dB ~ +12 dB  
Hi ゲイン： -12 dB ~ +12 dB

# コンプレッション

3-BAND 及び FULL-BAND モード  
SOURCE SELECTION ページ



## SOURCE SELECTION - ソース選択

処理したい素材の種類を選択します。

- 「S」を上下左右にドラッグし、ソースが一番近い種類のタイプを選択します。

各タイプは、アタック／リリース／スレッシュールド／レシオといった、コンプレッションの主要パラメータの組み合わせを変更します。

### ヴォーカル向け：

Female Vocal (女性ヴォーカル) / Male Vocal (男性ヴォーカル) / Speak (語り) / Choir (合唱団)

### インストゥルメント向け：

Guitar (ギター) / Piano (ピアノ) / Perc (パーカッション) / Kit (キット)

### 打楽器向け：

Kick (キック) / Snare (スネア) / Perc (パーカッション) / Kit (キット)

### フルレンジ素材向け：

Mix Rock (ロック) / Mix Soft (ソフト) / Mix Acoustic (アコースティック) / Mix Purist (ピューリスト)

# コンプレッション

3-BAND 及び FULL-BAND モード  
GAIN CONTROL ページ



## GAIN CONTROL - ゲイン・コントロール

ゲインの設定は極めて重要です。In Gain (イン・ゲイン) が高い程、信号がコンプレッサーのスレッシュールドにかかるようになります。

- 「G」を上下左右にドラッグすることにより、ハンドル一つで In Gain と Make Up Gain (メイクアップ・ゲイン) が同時に調節できます。

スレッシュールドは、ソース・タイプの種類によって自動的に設定されます。GAIN セクションは、信号がどれだけスレッシュールドにかかるかを調節することを可能とします。

コンプレッサーのパラメータ設定によって、レベルは変わります。Make Up Gain パラメータは、このレベル変更を補正する用途に使用します。

In Gain レンジ：-18 ~ +18 dB

Make Up Gain：-18 ~ +18 dB

# コンプレッション

3-BAND モードのみ

COMPRESSOR CONTROL ページ



## COMPRESSOR CONTROL - コンプレッサー・コントロール

Low / Mid / High パラメータは、3つのバンドに対するコンプレッションの量を示します。

- 「C」を上下左右にドラッグすることにより、3つのバンドのコンプレッション量の分布を指定できます。

低い周波数帯にコンプレッションの重点を置きたい場合は、「C」を Low 寄りに移動します。中・高域にしたい場合は、同様に Mid / Hi 寄りに移動します。

Gain パラメータはコンプレッサーの入力ゲインと出力のメイクアップ・ゲインを調節するのに対し、Compression Control は3つのバンドそれぞれに対するコンプレッションの量を調節します。

# コンプレッション

3-BAND モードのみ

LEVEL CONTROL ページ



## LEVEL CONTROL - レベル・コントロール

コンプレッションの強さによって、バンド毎のレベルをそれぞれ補正する必要が生じるかもしれませんが。

- 「L」を上下左右にドラッグすることにより、3つのバンドのレベルを指定できます。

Gain ページの Make-up Gain 機能は信号全体に対してレベルの補正を行います。ここではバンド毎のレベルを個別に調節できます。

# コンプレッション

## FULL-BAND モード

「3-BAND」にチェックがついていない場合、コンプレッサーはフルバンドで作動します。



3バンド・モードでは、「C」(Compression Control)と「L」(Level)は3バンドのコンプレッションの分布とレベルを調節します。

フルバンド・モードでは、これらのコントロールは重複するため、使用できません。フルバンド・モード時には「S」(Source Select)と「G」(Gain)のみが使用できます。フルバンド時の使用例は、ページ6～7をご参照ください。

## パラメータの調節 - コンプレッサー・セクション

前セクションの解説にもある通り、コンプレッションの4ページでは「S」「G」「C」「L」の各ハンドルを移動することによりサウンドを調節できます。ハンドル操作には、いくつか追加の機能が用意されています。

### Grid - グリッド

Source ページの「S」ハンドルは上下または左右にしか移動しませんが、Compression Control / Level / Gain ページの「C」「L」「G」ハンドルは全ての方向に移動できます。しかし、ハンドルを一つの方向にだけ動かしたい状況に遭遇するかもしれません。その場合は、グリッド上でハンドルが移動する方向をロックすることができます。



- 「C」「L」「G」いずれかのハンドルを左マウスボタンでグラブします。
- Alt キーを押しながらマウスを移動します。「コンパス」機能が起動し、ハンドルを移動する方向を2～6つから選択できます。
- 左マウスボタンは押したままで Alt キーを離し、マウスを移動します。ハンドルは、指定された方向のみに移動します。
- マウスボタンをリリースすると、グリッドがリリースされます。



## Limiter - リミッター



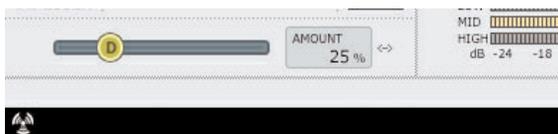
Fabrik C はリミッターを搭載しています。リミッターは、ソースで稀に生じる極端なピークによるオーバーロードを防ぐ目的に使用します。これは、コンプレッサーでは十分に捉えきれない、または抑えきれないピークに対して有効です。コンプレッサーとリミッターを2段階で使用する手法では、コンプレッサーをソフトなダイナミクス圧縮に、リミッターを極端なピークの制圧に使用します。

### Threshold - スレッシュホールド

設定レンジ：-24dB ~ 0dB

リミッターを通過する最大のレベルを指定します。-0.1dB の設定を推奨します。

## De-Esser - ディエッサー



ディエッサーは、歯擦音などのシビランスの周波数帯域にのみ作動する種類のコンプレッサーです。ヴォーカル・トラックなどでは「サ」行の音のみが強い場合があり、この様な状況においてディエッサーは有効です。

また、ディエッサーは、バックグラウンド・ボーカルなどで複数のヴォイスがリード・トラックと同じ「サ」行の音を重ねている場合にも便利です。

ディエッサーは、3バンドとフルバンド・モードいずれの状態でも使用できます。

### Bypass - バイパス

ディエッサーを ON / OFF します。

### Amount - 適用量

設定レンジ：0 ~ 100%

ソースを再生しながらスライダーを左から右に動かし、ディエッサーの適用量を指定します。ディエッサーは一部の高周波数成分を除去しますので、Amount パラメータを必要以上に高く設定することはしないでください。

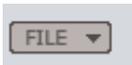
## プリセット管理

プリセット管理はファイル・ベースで行ないます。これは、極力理解しやすく、シンプルにプリセットを管理するための配慮で、ユーザーのワークフローに合わせた形でプリセットを整理でき、他のホスト・アプリケーションやプラットフォームを使用している環境との間でもプリセットの交換が簡単に行える利点をもたらします。プリセットは、それぞれ個別のファイルとしてハードディスク上に保存されます。一度プリセットをデフォルトの位置に保存すると、プラグインを使用する時に自動的に「FILE」メニューに選択肢としてあらわれます。サブフォルダにも対応しているため、ユーザーの希望する作業スタイルに合わせて、削除、移動、新しいサブフォルダの作成などを行えます。プリセットのフォルダはプロジェクト別やクライアント別、または用途別など、ユーザーが整理しやすい方法を自由に選択できます。

NOTE: フォルダ内に最低一つのプリセットが含まれていないと、フォルダはプリセット・ファイル・メニューに表示されません。

### Preset File Menu - プリセット・ファイル・メニュー

FILE ボタンを押すと、ファイル・メニューが開き、次の操作が行えます。



#### プリセットのロード

LOAD を選択すると、共有フォルダを含む、システム上で読み込み権限のある任意のフォルダを選択できます。デフォルトでは、Fabrik C プリセットのデフォルト位置からロードされます。ポップアップ・メニューには、Fabrik C プリセット保存用のデフォルト位置にあるプリセットのみが表示されます。

#### プリセットの保存

SAVE を選択すると、共有フォルダを含む、システム上で書き込み権限のある任意のフォルダを選択できます。デフォルトでは、Fabrik C プリセット保存用のデフォルト位置に保存を行います。

## リコール時のセクション・ロック機能

プリセットをリコールした際に特定のセクションの設定が変わらない様にロックすることが可能です。こうすることにより、例えば、現在の EQ 設定のみを固定させて、他のプリセットのディエッサーとコンプレッサー設定のみを変更する、といったことができます。

### セクションの設定をロック／アンロックする方法

該当するセクションのロックをクリックします。

ロック状態 アンロック状態



## プリセットの保存場所

Fabrik C プリセットは、次のプラグイン固有のフォルダに保存されます。

### OS X

#### ファクトリー・プリセット:

\ Library \ Application Support \ TC Electronic \ Fabrik C \ Presets

#### ユーザー・プリセット:

~ \ Library \ Application Support \ TC Electronic \ Fabrik C \ Presets

「~」は、ユーザー・フォルダ内のユーザー名のフォルダを示します。

### Windows

#### ファクトリー・プリセット:

~ \ TC Electronic \ Fabrik C \ Presets

#### ユーザー・プリセット:

My Documents \ TC Electronic \ Fabrik C \ Presets

「~」は、システム・ディスク内の、Program Files フォルダを示します。

- プリセットを消去するには、ゴミ箱に移動します。
- プラグイン・メニューでサブフォルダが表示される様にするには、Fabrik C のデフォルトのプリセット保存場所にある PRESETS フォルダ内に新しいフォルダを作成します。

NOTE: フォルダ内に最低一つのプリセットが含まれていないと、フォルダはプリセット・ファイル・メニューに表示されません。

## A/B 比較



### A/B ボタン

A/B 比較の機能により、二つの設定を比較しながら作業を進めることができます。

プリセットの操作をはじめた段階では、A/B ボタンは灰色で表示されます。この状態は、A と B の内容は同一で、比較する内容がないことを示します。

パラメーターを一つでも変更すると、メモリー「A」がアクティブとなり、A/B ボタンの「A」の部分が光ります。パラメーターの変更内容は全て「A」に反映されます。「B」に変更すると、始点に戻り、そこからの変更は全て「B」に反映されます。A/B ボタンを押すごとに、この二つの状態が切り替わります。

**NOTE:** A/B メモリーは、あくまでも一時的な設定の保存場所です。FILE ボタンや、セッションの保存によるプリセットの保存は、現在選択されているメモリー場所のみを保存します。他の（隠れた）メモリー場所の設定は、保存されません。

### MEM. ボタン

「MEM.」 ボタンを押すと、A/B メモリーが現在の設定にリセットされます。